

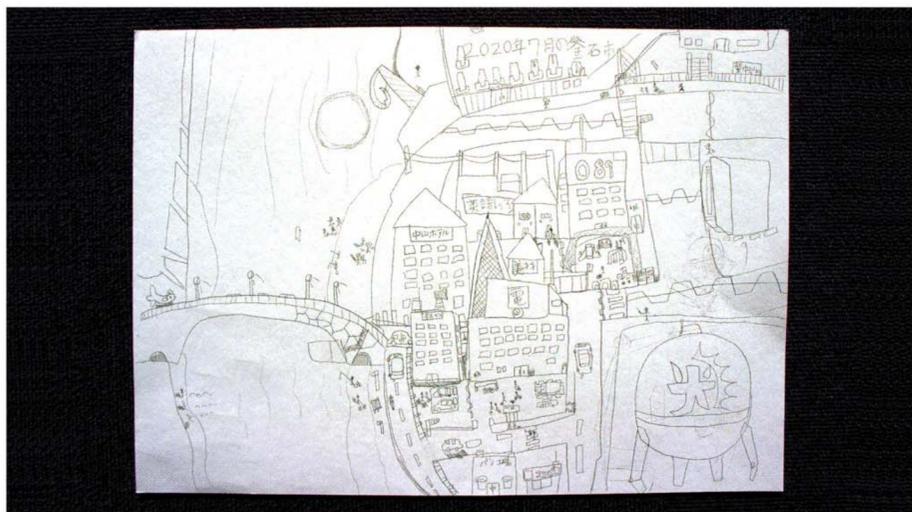
東日本大震災復興支援特別紙面

Vol.7



2011-9-2 大船渡市立第一中学校で実施されたグラウンドに建つ仮設住宅へのボランティア活動。1軒1軒、廃油を利用した石けんを手渡した。

逆に、笑顔を貰う。



2011-8-29 市立釜石中学校の生徒が描いた、前作のロボットが活躍し、復興した2020年の釜石の街。右上に現在間借りし同居している釜石東も描いてある。やさしい。タイトルは「つな・がり」。この「つな・がり」はゆっくり読んで欲しいから、という意味が込められている。

「つな・がり」。



2011-9-2 大船渡市立第一中学校のグラウンドに建設された宮田団地。団地周囲に設置された単管に麻袋の鉢植えが据え付けられた。花の種が蒔かれ、秋から来年の春にかけて花を咲かせる予定。

鉢植えから明日が芽吹く。

被災地の子供たちが撮った写真の中にみる復興への足音

今回の東日本大震災で被災された皆様にご心よりお見舞い申し上げます。大震災は日本全体に大きな被害を及ぼす大惨事となっています。しかし、被災地の復興活動は今まさに大きく動いています。NPO法人映像情報士協会が中心となって立ち上げられた「復興支援メディア隊」は、被災地の映像情報を大量に配信することで風評被害の影響軽減を目指しています。その活動の一つとして、被災地の小中学生らこどもたちにカメラを提供し、こどもたちの眼がとらえた復興の真実の姿を発信しています。震災後、被災地やその近隣支援地はもとより、日本中から助け合いの動きが起こり、「秩序ある復興」が粛々と進んでいます。映像からそうした状況を見ることにより、被災地から遠く離れていても、復興の足取りを正しく理解し、協力の手段を考えることができるはずです。

復興を支援する産業界各社と、日刊工業新聞社は復興支援メディア隊の活動に賛同し、その情報発信活動を支援します。

公式 web サイト

<http://www.ramediateam.org>

You Tube ページ

映像を You Tube チャンネルとしてご覧頂けます。
<http://www.youtube.com/user/Ramediateam#p/u>

facebook ページ

「復興支援メディア隊」 「復興支援メディア隊」会津版 「復興支援メディア隊」仙台版 「復興支援メディア隊」釜石版

企画制作：日刊工業新聞社・NPO法人 映像情報士協会

あの日から、八ヶ月が経ちました。

途方に暮れるような瓦礫の山は、徐々になくなって、東北の毎日は少しずつ、

今までの暮らしに戻ってきているようです。

そんな日々の移り変わりの中で、

とてもうれしいこと、それは子供たちがどんどん元気になっていくことです。

彼らは、もう次の地平を見ているようです。

東北の子供たち、

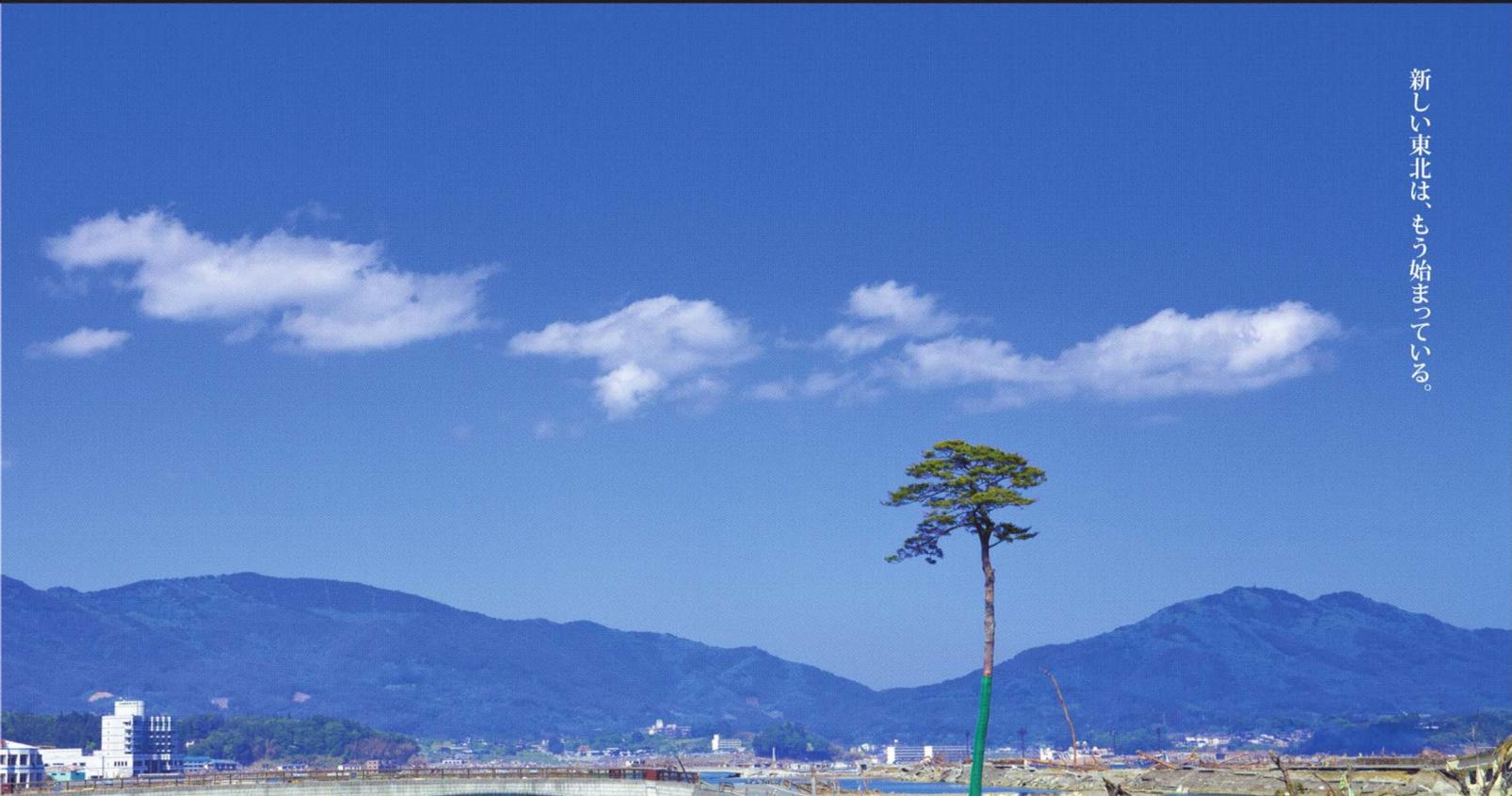
彼らこそが、未来の日本人。

十年後、十五年後、大人になる彼らへ

私たち日立建機ができること、それは、復興支援を続けていくこと。

彼らの元気に後押しされるように

新しい東北が始まっています。



新しい東北は、もう始まっている。